

平成 27 年度 第 2 回人権読本ぬくもり第 3 版検討委員会 議事録

- 1 開催日時 平成 27 年 10 月 27 日(火) 16:00~18:00
- 2 開催場所 教育委員会会議室
- 3 出席者 (18 名)
- 4 傍聴人 なし
- 5 議事

【委員】

ひらがなのみの題材と漢字を使って読み仮名を振っている題材とがあるが考え方は。

【事務局】

1 年生向け題材は平仮名表記, 2 年生向け題材は 1 年生で習う漢字をルビを付して使用している。

【委員】

「1 の 2 ルール」について。

装具の挿絵がわかりづらい。「体を支えています」よりは「足を支えています」の方がわかりやすい。

【委員長】

少しデフォルメしてもいいのでわかりやすく描いた方がよい。それが差別性を強調することにはならない。子どもたちには、実物よりも大きく見えているはずだ。

【委員】

「みんなでいっしょに」について。

たかしとみよの改心には唐突感がある。文章が長い。

「すきなものおしえて」について。

文章が長い。1 頁 2 段落は削除できるのではないか。

【委員長】

「みんなでいっしょに」について。

話ができすぎている。文章が長い。その後の展開を想像させるような終わり方は良い。

「1 の 2 ルール」について。

文章が長く、低学年はストーリーについていくのが精いっぱいでは。

【委員】

挿絵がわかりづらい。

【委員】

検証授業でも、登場人物が多すぎとの意見が出ていた。

【委員長】

「すきなものおしえて」について。

子どもの視点から見れば好きなものは 1 つか 2 つで良い。挿絵は、子どものイメージを

助けるので大きく載せる。

【委員】

キーワードは「でも、ひろしくんも一生懸命走りよったよ。」だ。この発言で物語が展開していくが、子ども達が決めつけを克服していくほどの説得性がない。

内容項目が「友情，信頼」なので，1年生にわかるような言葉で，ひろしが頑張って一生懸命取り組んだことを象徴する表現が必要。

「ぞうのもん」について。

最後の3行は高学年向けの表現なので，1年生には難しい。

【委員長】

我々教員は自分の思いを子どもに伝えようとしがちだがそれは伝わらない。子どもの中での芽生えをアシストする姿勢が求められる。最後の3行は，考えを子どもに押し付けているので削除。「象の門だけが残っています。」以後を子どもが考えることができるし，1年生の段階ではそこまで良い。

「てをあらおう」について。

この教材で人権学習ができるのか。

【事務局】

手洗いが命を守ることに繋がるという趣旨。手洗いから健康をつくっていく習慣を提示したい。

【委員長】

途上国などでは手洗いがままならない場合もあるので，それ自体は人権問題だと思う。いつでも手を洗える状況にあり，さらにそれを勧められている中での習慣形成とは異なる。

1年生にとって「わたしたちの」とは誰を指すのか。“わたし自身”か，“人間には手を洗う権利がある”と見るのか。

【委員】

“わたし自身”だ。クラスのみんなで手を洗っている挿絵から家庭までは考えが及ぶのではないか。

【委員長】

手の洗えない状況にある子ども達のことまで考えが及べばいいが，そこまでは行きそうにない。

解説に，手が洗えない状況の子どももいるということ載せておけば，教師の工夫で補助的な情報を提供できるのではないか。

「わたしたちのクラス」について。

解説に「髪の色がブロンド・青い目の男の子・肌の色が黒い子（外国籍）」とあるが，外国籍は特徴ではない。国籍には関係なく容貌の問題だ。在日韓国朝鮮人のように，日本と同じ生活様式でありながら国籍が異なるという場合もあるので国籍という言葉には慎重であるべき。

この挿絵は，じっくり見るとだんだんわかってくるところが良い。容貌の違いは，一見ただけではわかりにくいことが表現できている。

肌の色にもう少し差をつけてほしい。同じ日本人の子ども同士でも肌の色には差がある。左利きの子どもも入れてほしい。

【委員】

我々も当たり前と思っている部分があるが、車椅子の子どもが一番後ろの席になっている。

【事務局】

車椅子の子どもは一番前に配置する。左利きの子どもも入れたい。

【委員】

人物描写を丁寧にして議論の拡散を避けたい。例えば本来身長を問題にしたい2人の挿絵の一方の頭髪が天然パーマになっていたりすると、頭髪についても議論が生じてしまう。

【委員長】

子どもたちの世界でも、善悪は別にして異質なものは排除するというのが基本原則だ。小学校に入学してそれが問題となった時、この題材があることによってあるべき姿に立ち返ることができる。その意味で良い挿絵だと思う。

【委員】

「小さなくつのひとりごと」について。

出てくる靴が3種類で少ない。

「へいわってなんだろう」について。

少年兵の写真と地雷で怪我をした子どもの写真は、2年生に対して説明してわかる問題ではないと思われる。

「たべもののひみつ」について。

通常、学校で3つの食品群を指導する際は黄色→赤→緑の順番だ。本題材では緑→赤→黄色の順番になっているが、何か特別の意図があるのか。

牛乳だけが寝た状態で写っているが実際の配膳方法と異なる。

指導上の留意点の最後の3行は、指導に当たっての前提なので冒頭へ。

【委員長】

アレルギーや宗教の理由は、例外規定ではなく、まずありきの問題だ。食べる権利と同時に食べない権利もあるということから始める必要がある。

給食の写真が一番おいしそうなおいそうなのがあるのでは。

【委員】

なぜ、3食分の給食が写っているのか。

【事務局】

上が和食、中央がビビンバ、下が洋食という組み合わせを考えた。おいしそうに写真を撮るのは難しい。

【委員長】

バランスよく食材を使っていることを強調したいのか、おいしそうに見えることを目標

に写しているのか。

【事務局】

1回の給食に多くの食材が入っていることを示そうとしている。

【委員長】

普段給食を見ている子どもたちは、そのことは既に知っているのではないか。おいしそうに見えた方がむしろ魅力的。

【事務局】

メニューの全体像ではなく、みんなでおいしそうに食べている様子ではどうか。

【委員長】

そちらの方が良い。4～5人のグループで食べている写真があると楽しさが伝わる。

【事務局】

「へいわってなんだろう」について。

現在と過去及び日本と紛争地域の子どもをそれぞれ対比する趣旨で写真を配置している。子どもにとってリアリティのある題材にする観点から工夫した。

子どもという観点からはストリートチルドレン，児童労働，ゴミの山から資源物を探している子ども，難民キャンプの子どもなどの写真も考えられる。

【委員】

この題材の趣旨は、子どもが体の自由を奪われた事実自体ではなく、子どもは戦争の被害者であるということを伝えることだと思う。少年兵や地雷の写真でなくても他の表し方があるのでは。

【委員長】

少年兵や地雷は深刻な問題だ。いずれ伝える必要はあるがタイミングは検討が必要。写真を載せる場合は、教師が指導案を作るときのデータソースになる説明が必要。

【委員】

低学年の平和教材に関して経験的には、怖いと意識することから思考停止状態になる子どももいたことがあった。平和教育に拒否反応を示すようになれば教育効果として問題である。現行の国語教科書でも平和教材は3年生から掲載され、6年生の「平和の砦を築く」で締めくくられている。精神的負担をかけてはならない配慮が必要だということだ。少年兵等の問題は国際的，経済的ないわゆる南北問題等が背景にあり，低学年の子どもたちが学習する教材としては課題が多く不適當。

【委員長】

良い写真だが低学年に対して妥当かどうかの問題はある。大人に対しても説明が難しい背景があるので、最低でも中学校まで待つ必要がある。来年度から検討する中学校の教材には入れたいが、取り扱う中学校の教師は相当の勉強が必要になる。

初めて平和教材に触れる児童向けであれば、終戦時の写真と同じアングルで撮った現在天神の写真があればその2枚だけでいいのではないか。中学年になって原爆の話が出てく

るので、そこでイメージを付け加えて行ける。同じ場所、同じアングルの写真があれば、他人ごとではなくなる。低学年に向けてはそのような印象が重要だ。

【事務局】

少年兵と地雷で怪我をした子どもの写真は削除ということでよいか。

【委員長】

低学年用と考えると削除した方がいいと思われる。

【委員】

子どもたちから、少年兵の写真に対しては「かっこいい」、怪我をした子どもの説明に対しては「かわいそう」というような単純な反応が返ってくることも危惧する。

【事務局】

この題材は中学校版に移すこととして、全部を削除してはどうか。

【委員長】

古い写真と新しい写真の対比は有効だと思う。子ども達に、早いうちに時間の感覚を身に付けさせることができる。

【委員】

博多小学校に保存している地下壕跡を活用することも考えられる。福岡にこだわった写真の新旧比較も有効で、戦争はしてはいけない・平和はすばらしいということをイメージできるのではないか。

【委員長】

多くを要求せず、他人ごとでないことは確かだというイメージが伝われば良い。

【委員】

新旧の街並みの変化の背後には人の営みがあり、それをプラスイメージとして伝わるような工夫が必要。2年生段階では街の様子だけでは考えが深まらない。

【委員長】

写真の比較で1時間の授業をするのでなくても、「ぞうのもん」を勉強した際に参考資料として見せるという活用方法もある。

【委員】

「小さなくつのひとりごと」について。

わかりにくい。低学年でこの詩に込められた思いを読み取ることができるのか。靴が独り言を言っているが登場するのは3足という点も疑問。生活科の最後の段階で取り扱うのは難しいのではないか。

【委員長】

家庭の情愛ではなく出会いとして書かれているので多様な背景の子どもたちに対応できるが、最後の詩は不要。

靴が登場する理由は。

【事務局】

外出時に様々な人と関わって来たことを今の自分に問いかけ思い出させる趣旨だ。

【委員】

この題材でこれまでの学習を回想させるのは難しい。単純に学習内容を振り返った方がわかりやすい。詩はわかりにくい。

【事務局】

詩を削除して靴の言葉を精選したい。

【委員長】

本文への修正は詩の削除のみ。いろいろなものに出会わせるだけでよく、感謝まで要求してはいけない。

解説も、出会いの意味を伝えれば良く、それ以上を期待するのは難しい。

「いのちのはじまり」と比較すれば、誕生の時の記憶がない分だけこちらの方が体験的に理解しやすい。「いのちのはじまり」は、大人目線から出産は大変だから感謝しなさいというニュアンスがないわけではない。

3 答申

4 今後の予定について

5 閉会